

フランス語圏言語文化コース



准教授
はらの ようこ
原野 葉子 先生

フランス語圏言語文化コースとは

このコースでは、世界に広がるフランス語圏（フランス、ベルギー、カナダ、モロッコ、ハイチ…）をフィールドとしつつ、言語文化、文学、メディア、モードやジェンダー等について、古今の歴史や社会状況も含めた多様な角度から学ぶことができます。フランス語能力の錬成と、異文化とのゆたかな出会いを通じて、柔軟な思考力と高度な表現力を身に付けていきます。それは同時に「他者との共生」を学ぶプロセスでもあります。

原野先生の研究

第二次世界大戦後のパリで、実存主義のユースカルチャー的側面を牽引した作家ボリス・ヴィアンの研究を行っています。彼はサルトルの若き友人として、また技師、ジャズ・トランペッター、コラムニスト、歌手といった多才な顔を持つインフルエンサーとしてもはやされた反面、本命の小説家としては不遇に終わり、正当な評価を受けるには死後10年を待たねばなりません。私の目下の研究テーマは、彼の自由奔放な言語芸術の基底をなす科学精神を説明することです。小説や戯曲、ジャズ時評、さらに草稿やメモといった多様なテキストの無意識を探索し、有機的な連関を発掘していく作業は刺激的で、そこから戦後の思想界や文学界、メディアのありようがより立体的に見えてくる点も面白いですね。

フランス語圏言語文化コースを選んだ理由

「若者たちの歌が聞こえるか光求め高まる歌の聲が世に苦しみの炎消えないがどんな闇夜もやがて朝が」これは、ミュージカル『レ・ミゼラブル』のエピソードの歌詞の1節ですが、まるでコロナ禍で自由を制限された私たちの願いのようにも聞こえます。時代を超えるレミゼの普遍的な魅力は何なのか、自分なりの答えを見つけたくて私は仏文コースを選びました。

フランス語圏言語文化コースの魅力

「仏文」の「文」は「文学」の「文」ではなく、「人文学」の文です。そのため、コースの正式名称も「フランス語圏言語文化コース」となっています。仏文コースを卒業していった先輩方は、文学だけでなく、言語学や芸術、音楽、歴史などさまざまな分野で卒論を書いています。フランス語、フランス語圏に関わることならなんでも学べるというのが、仏文コースの魅力です。

面白いと思った専門科目

世紀末フランスに焦点をあててフランス文化の実態を学ぶ、白田先生の「フランス語圏文化論」や、とにかくテキストベースでフランス文学を総ざらいます。原野先生の「フランス語圏文学史」は実際に私が受けた仏文コースの授業で面白く感じたものです。これらは、全学部向けに開講されていますので、仏文コースを選ばなかった方や、選ぶかどうか迷っている方にはお勧めです。

卒論テーマ例

- ・ Le Dernier Amour du prince Gendhi におけるユルスナールの『源氏物語』の理解と再創造
- ・ フランスにおける過疎化対策とその効果、成功の要因
- ・ ビトレスクを通して見るロココ 絵画と風景式庭園

フランス語圏言語文化コースにとっての『とびうら』とは？

それがなければ知ることがなかったかもしれない世界を知り、出会わなかったかもしれない人たちと絆を結ぶことを可能にしてくれる。その先に広がる可能性の途方もない豊かさや深さにおいて、外国語は確実に最強レベルの扉なわけで、仏文ではネイティブを含む教員とともに、総合的なフランス語力を養っていきます。

私が原書講読で扱っているのは、フランスの国民的詩人プレヴェールの『おりこうでない子供たちのための八つのお話』。冒頭で語られるのは現代版『親指小僧』です。財宝を得て故郷への凱旋を果たす英雄譚に代えて、ここでは虐待する両親をさっさと見限り、エキゾチックなダチョウの背中にまたがって新世界へと奮進していく主人公の出自が描かれます。

世界はあなたの外側にも、そして内側にも広がっています。あるべき呪縛を蹴散らしていった親指小僧のように、扉は選択できるのです。自由を探索する新たな冒険へと、あなたもぜひ一歩を踏み出してみてください。（文・原野先生）



3回生
もりもと たかひと
森本 貴仁 さん